

大学研究力の把握と発信について

○齋藤憲一郎・諏訪桃子

東京農工大学・先端産学連携研究推進センター (URAC)

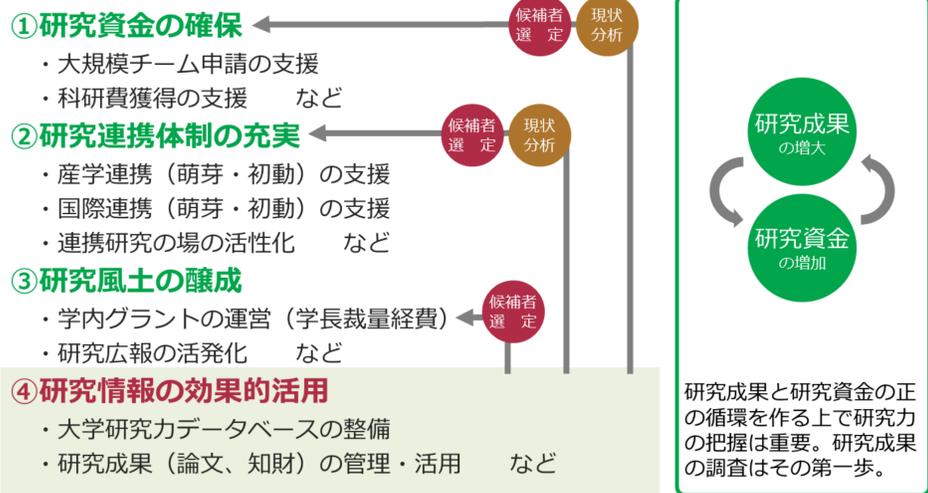
Tel: 042-388-7273 E-mail: ken-is@cc.tuat.ac.jp



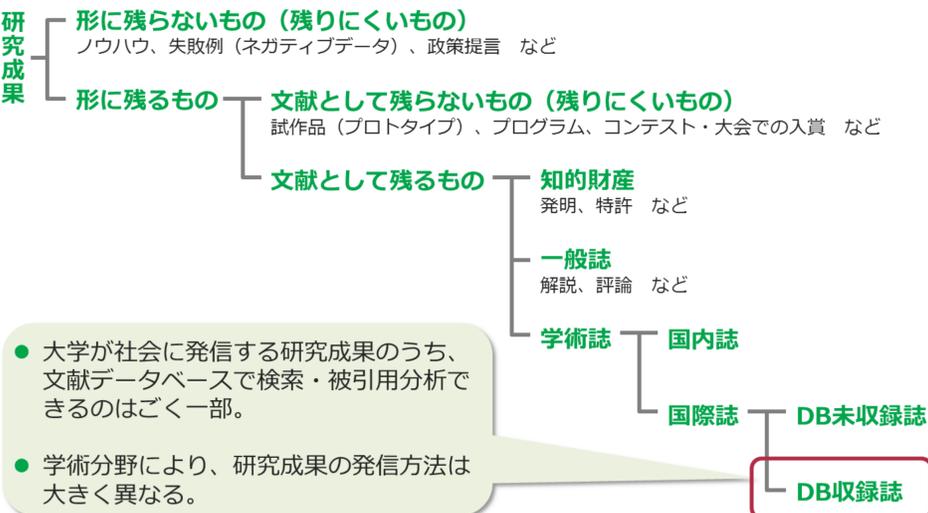
要旨

大学の研究推進企画のために、まず研究力の把握が重要である。これは主として研究成果の調査から始まる。現在のところ、アプローチは専ら論文の被引用分析に限定されている。一方で学術分野ごとの文化・土壌により成果の発信方法は様々ではない。すでに定着した感のある被引用分析においても、実務レベルでの課題は多い。また、研究成果の発信強化も重要な課題である。既存の学内組織と連携した実践例を示し、課題を共有したい。

研究環境の改善・新規整備と研究力把握



大学の研究成果の種類



被引用分析における課題

- 最大の課題：名寄せ
- 論文DBは、論文を書いた研究者にあまり着目していない
 - 同姓同名は基本的に区別できない (他の情報と組み合わせる必要あり)
 - 研究者は異動するため、所属の把握が困難 (本人以外では事実上不可能)
 - フルネームで検索できるのは2005-2006年以降
 - 論文そのものが、“誰が書いたか”を重要視していない
 - 著者や所属の書き方に共通の決まりがない (雑誌や著者次第)
- 対策とその限界
 - 自機関内なら管理方法あり (RIDなど；東京農工大のRID取得率は9割)
 - 最近では国内外の他機関研究者とのチーム編成を考えると、自機関の研究者だけを把握すればよいわけではない
 - かなり深刻な状況だが、分析担当者 (URA?) 以外はあまり認識していない

右表は、ある国内論文DBを“齋藤憲一郎”で検索した結果。

ここから、同一著者の論文を抜き出すのはとても困難 (英語はもっと大変！)

判断のポイントは“所属”、“年代”、“分野”だが、限定的。

① 齋藤憲一郎	① イネいもち病菌のneuronal calcium sensor1様遺伝子
② 著者	② 齋藤憲一郎, 有江力, 寺岡 徹, 鎌倉 高志
③ 収録刊行物	③ 日本植物病理学会報 69(3), 236-237, 2003-08-25
④ 著者所属	④ 農工大農
① キチンオリゴ糖を介したイネいもち病菌の相互作用	① 生みだされた「物語」--幼児と大人の共同想起実験から--
② 西澤 洋子, 岸本 久太郎, 齋藤 憲一郎, 南 栄	② 山本 登志哉, 齋藤 憲一郎, 高岡 昌子 [他]
③ キチン・キトサン研究 14(2), 102-103, 2008-07-01	③ 発達 18(69), 41-57, 1997-01
④ 生物研・植	④ 情報なし
① ウコンノメイガによる葉巻がダイズの生育に及ぼす影響	① 理工学雑誌の引用度順位
② 高木 由美, 齋藤 憲一郎, 村岡 裕一	② 逸村 裕 [他], 小川 治之, 緑川 信之, 金子 昌嗣, 齋藤 憲一郎
③ 富山県農業技術センター研究報告 (22), 7-12, 2005-03	③ ドクメンテーション研究 33(6), 273-279, 1983-06-01
④ 情報なし	④ 慶応義塾大学理工学情報センター
① 疫病菌に起因するネギ立枯病に対する品種間差異と有効薬剤	① 理工学雑誌の引用度順位
② 梶沢 順子, 守川 俊幸, 向島 博行, 齋藤 憲一郎	② 緑川 信之 [他], 齋藤 憲一郎, 逸村 裕, 金子 昌嗣, 小川 治之
③ 日本植物病理学会報 70(3), 212, 2004-08-25	③ 情報管理 25(9), 797-807, 1982
④ 富山農技農試	④ 情報なし

国内外への研究力発信強化

① 研究力成果のプレスリリース

<教員等からの研究成果の発信例>

- 学術論文の優良なジャーナルへの掲載
 - 優良な国際会議への招待講演の予定
 - 大型外部資金の獲得
 - 研究成果に対する権威ある賞の受賞
 - 民間企業等への技術移転/知財ライセンス など
- (ただし、論文/特許など、公表タイミング (新規性喪失) に注意！)

<URACの支援>

- 原稿チェック
- 一般的に広く理解される文章が確認 (専門用語や略語には解説を入れる) (難解な文章は平易な表現に変える)
- 外国人研究者の日本語原稿作成



② 研究力紹介ビデオの制作

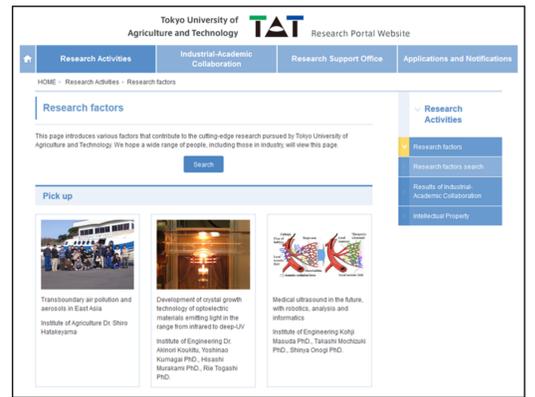


国際連携促進を目指す

- 本学の研究力をプロモーションする15分程度の紹介動画 (日本語版、英語版) を制作。
 - URAが海外の研究機関へ動画を持参し、共同研究の提案/交渉を行った。
 - YouTubeに配信した結果、のべ再生回数は日本語版：6,659回、英語版：2,565回の視聴実績があった (2014年9月12日現在)
- 詳細は P43 で紹介中

③ 研究要素集の提供開始

- Webを用いた「研究要素集」(日本語版・英語版) の提供を2014年4月から開始
- 狙い：外部研究機関との連携研究、産業界との共同研究等の進展



- 「研究領域」「キーワード」「研究者」で検索可能
- 「メンバー」「分野」「所属」「研究概要」「主要論文」一部動画も視聴可能
- 103件を登録済 (2014年8月末時点)

研究力発信の課題と今後の対応

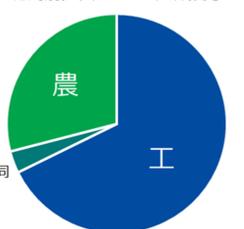
● 発表のタイミング

- 準備が後回しになり発表のタイミングを逸する場合あり。

● “広報”の重要性が伝わっていない

- 学部により積極さが違う。
- 発表は特定の研究者に偏る。
- 個人的な繋がりや、特定の記者に発信してしまう事例も。

2009-2013年の部局別プレスリリース件数比



● ベストなタイミングでプレスリリースするために広報と連携して学内のさらなる意識向上に努める。

● 新たな短編動画を製作発信し、研究要素集を充実させる。国際共著論文、共同研究の増加をめざし、研究大学としてのアクティビティをアピールする。